

天溪 2017 年「パタゴニア・パイネとフィッツロイ 14 日間」

天溪今年最後のツアー「パタゴニア・パイネとフィッツロイ 14 日間」を 12 月 1 日～12 月 14 日に行いました。

アルゼンチンの首都ブエノスアイレスから南米大陸に入り、パタゴニアを巡り、チリの首都サンチャゴから帰国するスケジュール。パタゴニアは南アメリカ大陸の南緯 40 度付近を流れるコロラド川以南の地域の総称で、その南端の南緯 50 度付近が今回旅した所です。当初は 2018 年 1 月を予定しましたが 1 ヶ月早めての実施になりました。

ブエノスアイレスでタンゴショーを鑑賞してから、カラファテに飛び、チャルテンに移動してフィッツロイ山麓をハイキング。再びカラファテに戻りパタゴニアの景勝地ペリト・モレノ氷河を観光。アルゼンチンから国境を超えてチリに入り、トーレス・デル・パイネ国立公園で 4 泊 5 日の山小屋トレッキング。旅の最後はプンタアレナスへ、そして首都サンチャゴに飛び 120km 離れた世界遺産の港町バルパライソを観光。短期間にして盛り沢山な内容でした。

丁度この地は夏の始まりで気温は 5 度～15 度ほど。低木の草原や濃緑な南極ブナの原生林にパタゴニアの花々が美しく咲いていました。大きなシダ類は無いものの、どことなくニュージーランド南島のサザンアルプスに似た雰囲気があります。



※リヤマやアルパカと同じラクダ科のグアナコの群れとパイネ山群 12/6 日撮影

○ブエノスアイレス

アルゼンチンと言ったらタンゴと牛肉ステーキ。肉塊 250g(大 450g)のステーキを食べながらタンゴを鑑賞、やはり本場は違います。中央の写真は南米原産のジャガランダ、綺麗な薄紫の花が特徴です。



○フィッツロイ

フィッツロイ(3405m)は巨大な岩峰で、どことなくチロルのドライチンネに山容が似ていますが、垂直にそそり立つその壁は高さ 1000m 以上、また奇岩峰のセロ・トーレス(3012m)も近くに位置します。今回はフィッツロイとセロ・トーレス両方の足下に有る氷河湖まで往復ハイキング。両方共に 1 日約 10 時間の行動でしたが全員完歩、流石は天溪の皆様です。



※快晴のフィッツロイ 3045m 12/5 日撮影

☆セロ・トーレス ハイキング風景



☆フィッツロイ ハイキング風景





○ペリト・モレノ氷河

フィッツロイからパイネに移動する途中、パタゴニア観光の景勝地、ペリト・モレノ氷河に出かけました。フィッツロイと同じ世界遺産のロス・グラシアレス国立公園の中に有るこの氷河は全長 35Km。太平洋側から吹き上げる湿った空気による降雪で発達し、温暖化の現在でも後退していないとの事。この氷河が湖に流れ込む様を船から見るのが観光のポイントで、結構セラックの崩壊を轟音と共に見ることが出来ます。



○パイネ

チリに入りパイネ国立公園を4泊5日でトレッキング。天気が目まぐるしく変わり、パタゴニアの代名詞の強風にも煽られました。氷河に覆われた公園最高峰のパイネグランデ(3050m)、3岩峰のトーレス・デル・パイネ(パイネの尖塔)、眼下に広がる湖沼など、雄大な景色を楽しみながらトレックを続けました。



※晴天でも横風の強いトーレス・デル・パイネ 12/10日撮影



※写真の一番前はパイネグランデロッジの横にある船着場で乗船を待つ人々。シーズン初めで、週末でもないのにこの混み様。

ハイシーズンの1月～2月はハイカーで凄いことになるのでは??



○プンタアレナス

パタゴニア最後の宿泊地のプンタアレナスは南緯 53 度。ここはマゼラン海峡に面する荒涼としたイメージですが、日平均気温は 1 年を通して零度以、ただ風が強い所です。南米最果ての地の様に形容されるこの港町は思いのほか大きく、人口約 13 万人。ブエノスアイレスから肉料理が続いていたのでシーフード料理は格別でした。



※マゼラン像

○バルパライソ

帰国便が深夜発の為に昼食と観光を兼ねてバルパライソへ出かけました。ここはチリの首都サンチャゴ西方 120Km に有る太平洋に面した港町、2003 年世界遺産に登録されています。



※現役のアセンソール

今年为天溪ツアーはこれを持ちまして全て無事に終了することが出来ました。皆様のご愛顧を心より感謝申し上げます。
2018年天溪ツアーは同じ南半球、1月26日発「ミルフォードトラックとマウントクック11日間」で始まります。

新年も何卒、宜しくお願い申し上げます。

記 天溪 赤沼